

## 米下院が思いがけなくも不法の NSA 捜査の中止を票決

June 20, 2014

RT (Russia Today)



アメリカの監視に反対する人々にとって、大きなはずみになるようなことが起こった。米下院は木曜日、アメリカ人の通信記録に対する不法な捜査を大きく規制する修正条項を可決した。

293 対 123 の票決により、下院の二大政党集団は、国家安全保障局（NSA）が米市民に対して“裏口捜査”を行うことを禁止した。これは諜報共同体が、その公的ターゲットが外国人であれば、令状なしにアメリカ人についてのデータを集めることを許容するものだった。この計画は最初、エドワード・スノーデンによってリークされた文書を通じて、ガーディアン紙によって明らかにされた。

NSA がこれまで主張してきたのは、あるアメリカ市民が、監視の対象となっている外国人と連絡していることがわかったときには、諜報局は合法的にそのデータ——eメール、電話、テキスト会話——をデータベースに蓄え、米市民についての情報が必要な時には、いつでもそれを使って捜査できるというものだった。下院の票決は、NSA がこのデータ収集を、米市民に対して拡張しつづけているという疑いが高まっているときに行われた。

Huffington Post によれば、この修正条項は「特定の NSA が、外国人諜報監視法のもとに、それが収集している通信データによって、米国市民を特定する情報を利用することを

禁止するものである。」

それに加えて、下院は NSA が、この局に顧客通信データへのアクセスを容易く与えている他の会社のハードウェアとソフトウェアに、裏口捜査能力をインストールすることを禁止した。

「私は人々が今起こっていることに目覚めつつあると思う」と、修正条項の推進者 Thomas Massie 議員は Post に対して話した。「共和党員であろうと民主党員であろうと関係ありません。なぜなら、これに気付けば、共和党員の大多数も、民主党員の大多数も全く変わらず、これに賛成投票したからです。」



下院のこの行動はまた、「アメリカ自由法」を認めた前回の票決の後を追うものである。この法案は、NSA の大量のデータベース収集を阻止することを狙ったものだったが、ホワイトハウスや諜報共同体との折衝の後、ひどく弱体化されていた。穴が各所にあけられて、監視活動の継続が可能になり、RT が 5 月に報じたように、他の規定も削られて、市民的自由の擁護者たちもこの法案の支持を諦めざるを得なくなった。

この最も新しい修正条項は、前回切り捨てられた規定を強化し、その結果、米国市民自由連盟 (ACLU) やグーグル、その他の支持を取り付けた。

「今夜の、アメリカ人民の電子データへの、NSA の裏口アクセスを制限する票決は、〈アメリカ自由法〉が、下院リーダーの諜報共同体との秘密の交渉によって、どのようにして骨抜きにされたかをめぐって、下院議員の間に不満を広げるものでした」と New America Foundation のポリシー・ディレクター Kevin Bankston は、Daily Beast 紙に対して話した。

この制限は、議会全体による承認がなければ有効ではないので、バックストンは、上院に対しても、包括的防衛予算案がオバマ大統領のデスクに届けられるときに、同じ措置案を通過させるよう求めた。

圧倒的な票差だったにもかかわらず、この修正条項はその通過までに、多くの障害に直面した。マッシーはハフントン・ポストに対し、下院リーダーたちはこれを支持せず、票決に持ち込んだのは、両党の共同支持者がいたからだったと話した。

デイリー・ビースト紙が書いているように、NSA 支持者たちはまた、この修正条項の性急な票決を非難し、この局の行動は法の範囲内にあり、これを弱めることはアメリカの国家安全を弱めることだと論じた。

「我々はたった 10 分の議論をただけで、歳出予算案提出のときにこんなことをすべきではない」と、Dutch Ruppersberger 議員は言った。

一方、ACLU 代理ディレクター Jameel Jaffer は、ガーディアン紙に対し、NSA の公的ターゲットが誰であれ、米市民の私的記録の捜査ということになれば、目的が手段を正当化することにはならないと論じた。

しかし、修正条項のこの強い文言を含む歳出予算案がオバマに届くか否かは、未知数である。マッシーはこの票決に満足してはいたが、上院を引き込んで、2つの考え方を会議で融合させることは難しいと認めている。

「これには策が必要です。上院でも会議でも、これを強く支持する誰かが必要になります」と、彼はハフントン・ポストに話した。